

確かな学力を身に付けた生徒の育成

「主体的・対話的で深い学び」における ICT の活用を通して

2019-2020 パナソニック教育財団特別研究指定校

宮崎県小林市立東方中学校



I 主題設定の理由

現代は科学技術の加速度的な進化にともなう産業の変化などにより、地球規模の環境変動や新型コロナウイルスに代表される病気との戦いなどが引き起こされ、社会構造や日常生活が急激に変化しています。よって、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちにおいては、予測できない状況に対応して自立して生きていく力を身に付けさせる必要があると考えます。そこで本校は、予測できない状況に対応して自分を律し自立して生きていく力を「確かな学力」ととらえ、研究を行うこととしました。

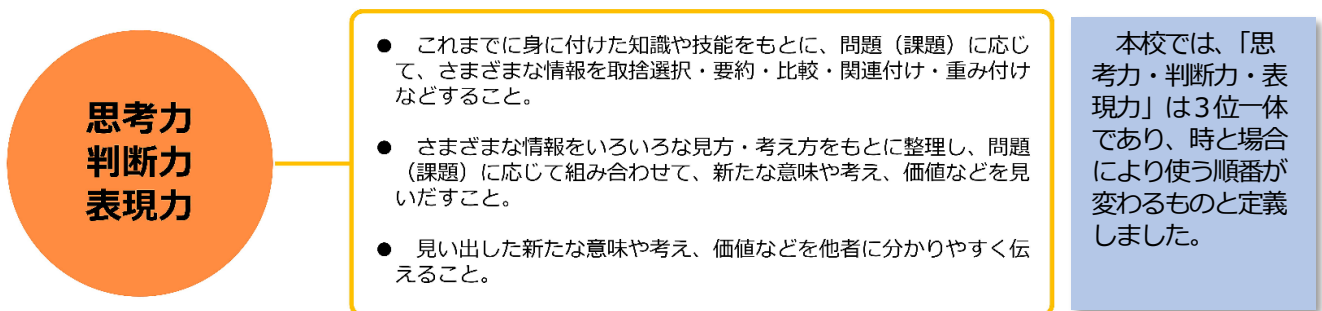
本校における「確かな学力」のとらえ → 予測できない状況に対応して自分を律し自立して生きていく力

II 本校における研究内容の定義

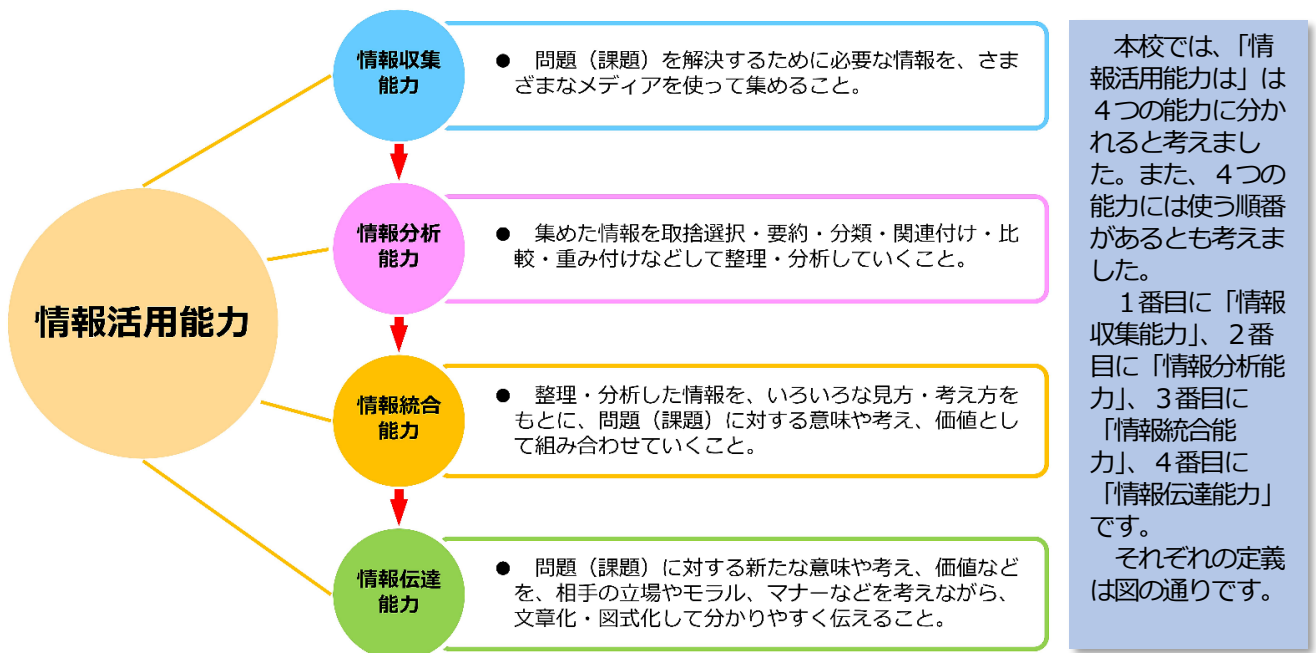
1 「確かな学力」の定義

本校は、予測できない状況に対応して自分を律し自立して生きていくために必要な「確かな学力」を、「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」が合わさったものと定義しました。それぞれの定義については下の図のように考えました。

東方中学校における思考力・判断力・表現力の定義図

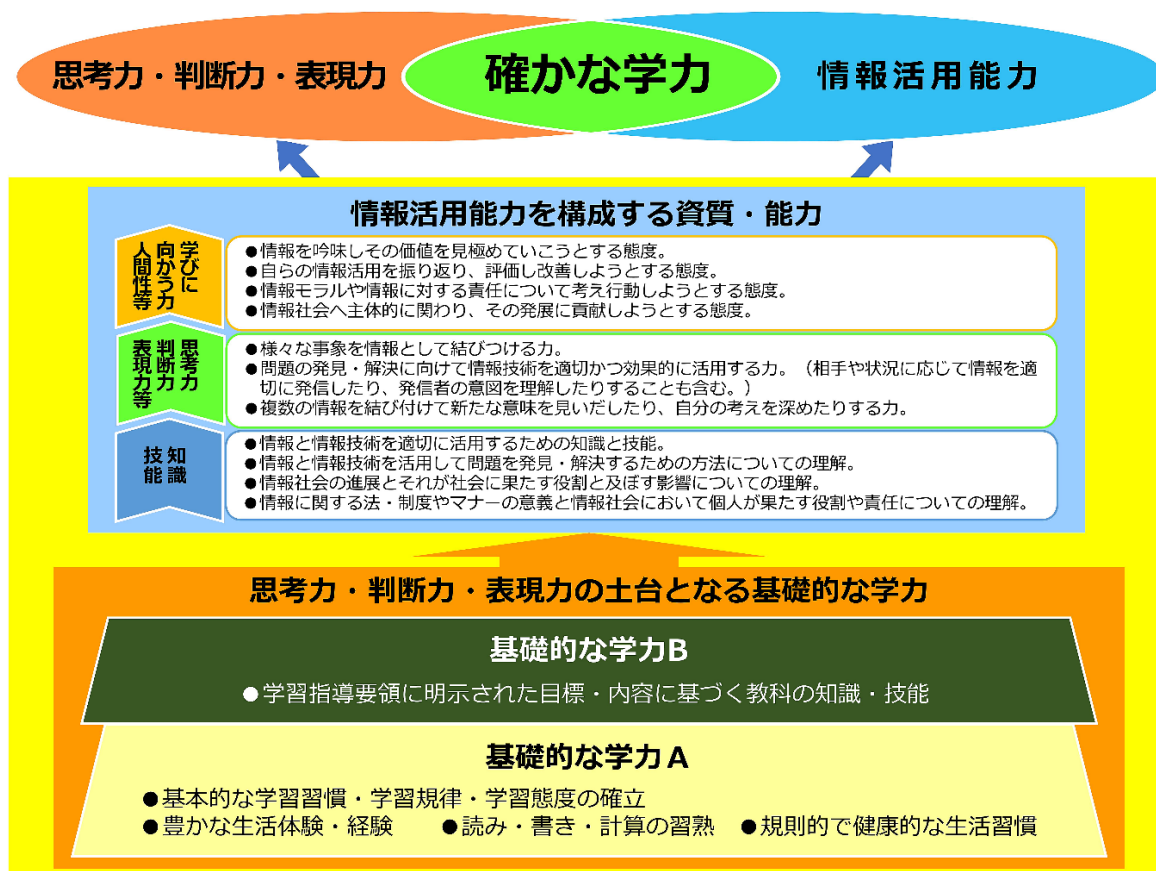


東方中学校における情報活用能力の定義図



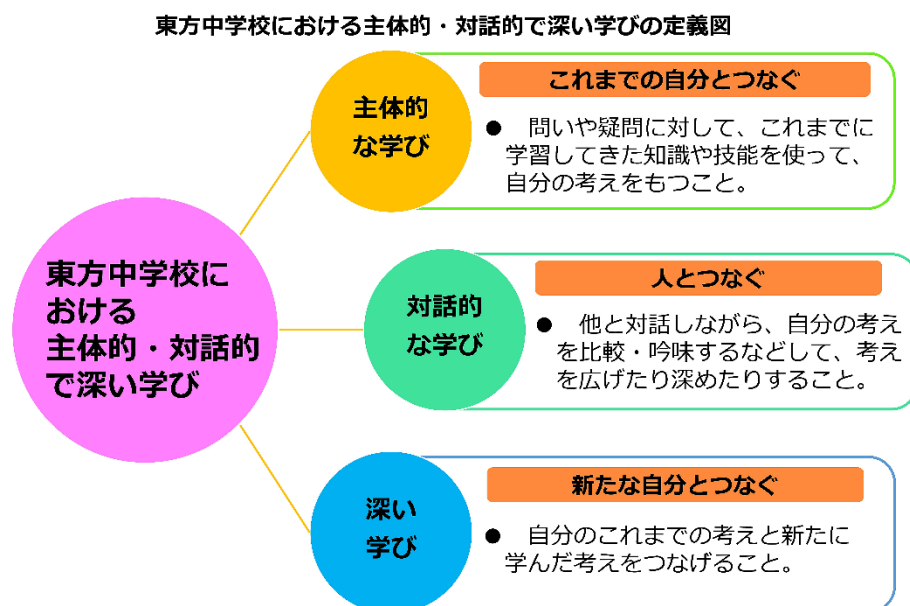
2 「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」を支える基礎的な学力

生徒の「思考力・判断力・表現力」、「情報活用能力」を育成するためには、土台となる基礎的な学力が必要と考えました。下の図が、本校が考える「思考力・判断力・表現力」、「情報活用能力」を育成するための土台となる基礎的な学力となります。



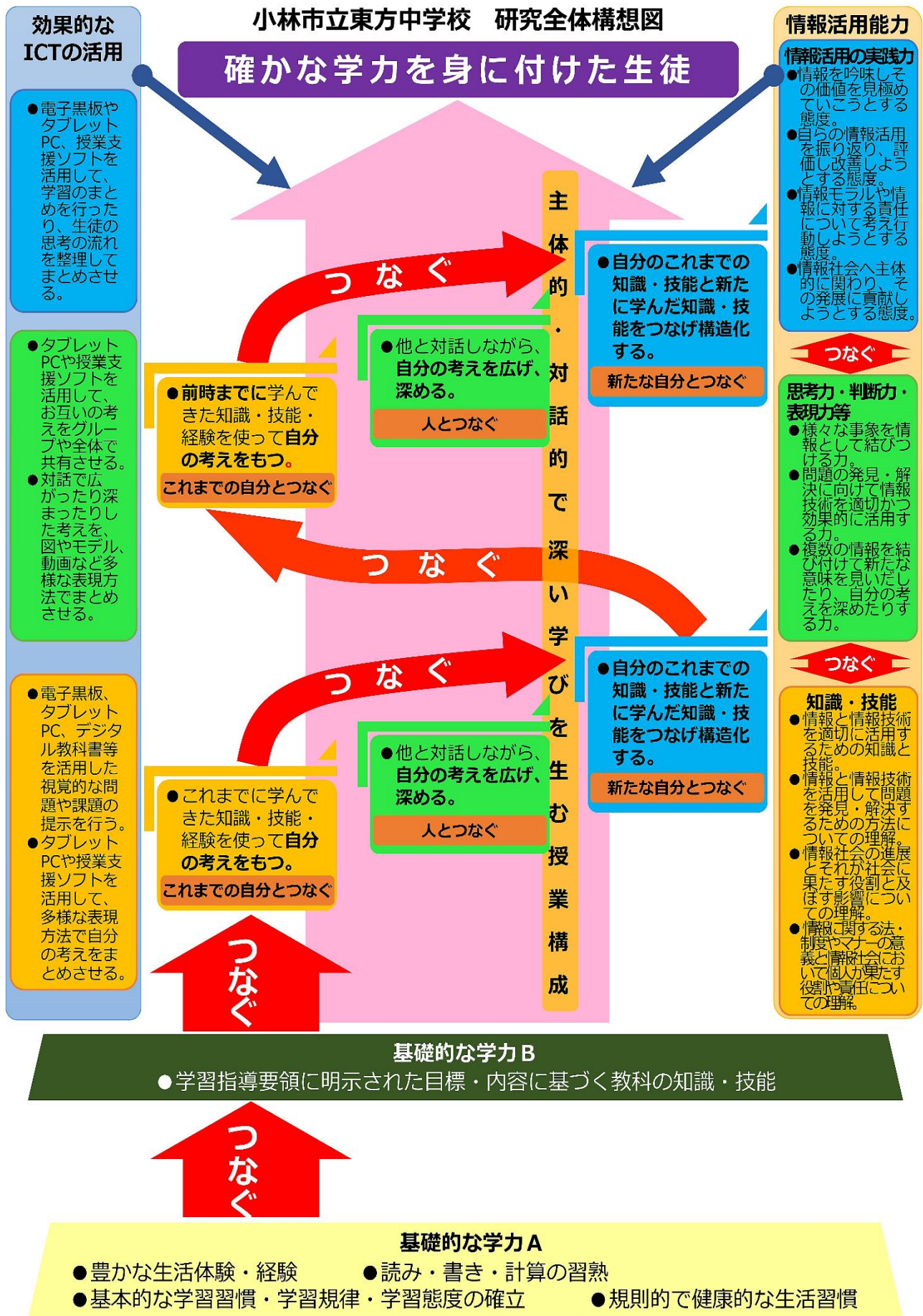
3 本校が考える「主体的・対話的で深い学び」の定義

本校が考える「確かな学力」を生徒に身に付けさせるためには、「主体的・対話的で深い学びを生む学習過程」を通して意図的、計画的に「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」を育成する場を設定すること、ICT を効果的に活用することが重要だと考えています。右図が、本校が考える「主体的・対話的で深い学び」の定義です。



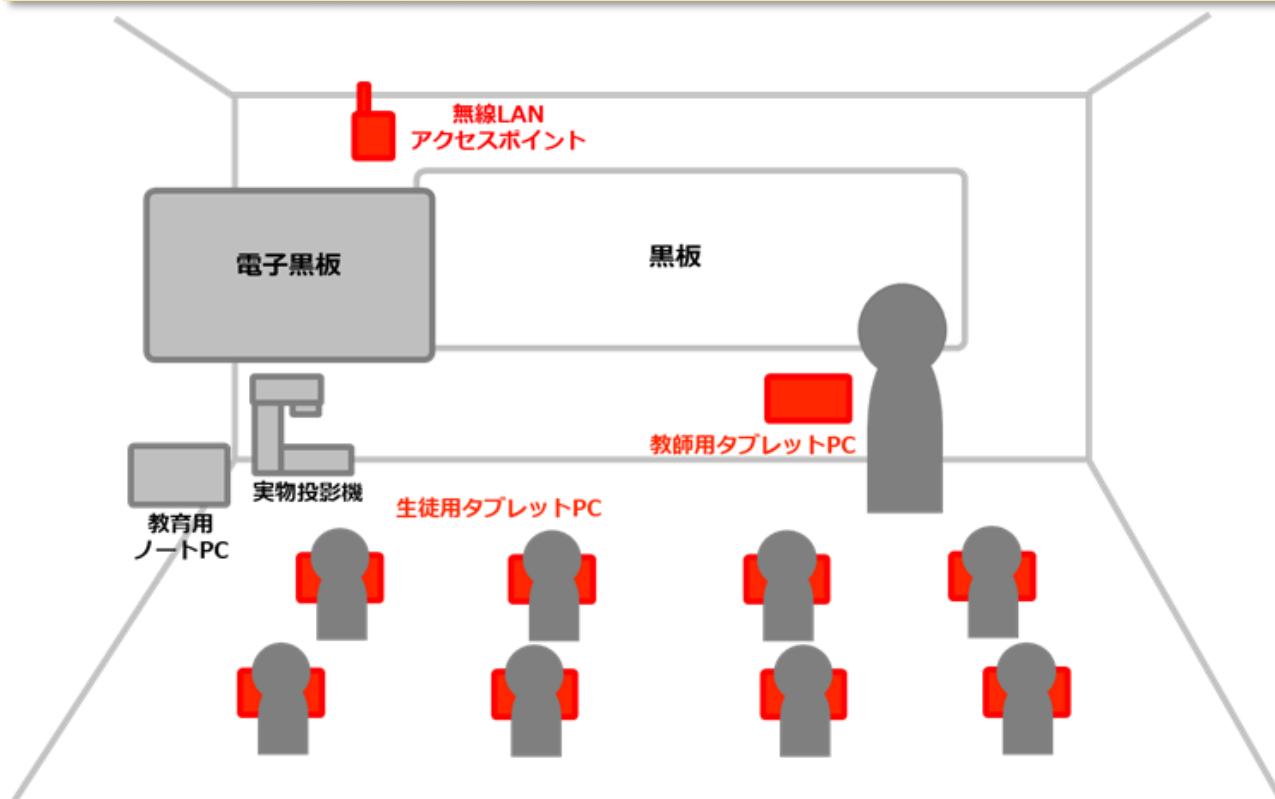
4 「確かな学力を身に付けた生徒」を育成するための全体構想図

本校が考える「確かな学力を身に付けた生徒」を育成するための全体構想を下の図のようにまとめました。



東方中学校の教室環境

- 無線 LAN 環境が整備され、タブレット PC を起動すると、インターネットに接続できる環境になる。
- 教師用タブレット PC を通じて、生徒一人一人のタブレット画面を電子黒板に提示したり、生徒に、事前に作成した授業用発表ノートを配付することができる。



タブレット PC

- Microsoft Surface Pro4 (Windows 10 Pro)、教師用 3 台、生徒用 30 台
- ソフトウェア (電子黒板関係) ・ ・ ・ ・ デジタル教科書 (国・社・数・理・英)
(タブレット PC 関係) ・ ・ SKYMENUClass2018 (環境復元・授業支援)
Microsoft Office 2016 (オフィスソフト)



タブレット PC の管理

- 日常の保管は、職員室に置いてある充電保管庫に入れている。
- 生徒は、タブレット PC を活用する際、担任の指示で職員室に取りに来る。
- 授業以外に生徒が使用する場合は、タブレット PC 貸し出し表に、使う日時、タブレット PC の番号、使用者を記入するようにしている。



これらの充実した ICT 環境の中で、教師を含め生徒たちは各教科の授業だけでなく、運動会や文化祭といった各種行事や生徒会活動などでタブレット PC を活用しています。タブレット PC は昼休みや放課後にも貸し出しをしており、生徒がタブレット PC 使用の決まりを守った上で自由に使えるようにしてあります。また、教室前面には「タブレット PC を使うときの決まり」を掲示しており、年度最初にタブレット PC の使い方を全職員全生徒で共通理解する時間を確保し、説明や指導を行っています。

次に、本校が約 1 年 9 ヶ月の研究期間の中で取り組んできた内容について紹介します。

2 各教科における「主体的・対話的で深い学び」を生む学習過程と効果的な ICT の活用の工夫

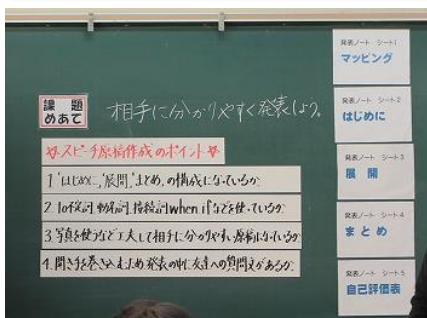
本校が考える「主体的・対話的で深い学び」における学習過程と効果的な ICT 活用の工夫として、各教科で研究を進めた結果、以下のような手立てが効果的ではないかと考えられます。

主体的な学び

これまでの自分とつなぐ

- 問いや疑問に対して、これまでに学習してきた知識や技能を使って、自分の考えをもつこと。

- 本時の学習課題を、到達目標や行動目標の型（疑問形が望ましい）で黒板などに明示する。
- 電子黒板を用いて、前時までに学習した内容から、本時の学習内容に関連した内容を提示して確認させる。
(数学、音楽、理科)
- 電子黒板とタブレット PC、スマートフォンなどを接続して、学習課題に関する資料の画像や動画を視聴させ、参考にさせたり、関心や意欲を高めさせたりする。
(保健、体育、数学、音楽、理科)
- 電子黒板を用いて、デジタル教科書の内容や本時の学習内容に関する画像や動画を提示し、自分の考えや仮説をまとめさせる。
(社会)
- 電子黒板を用いて、各自の考えを全体に提示する。
(音楽、理科)
- 電子黒板を用いて、前時までに学習した内容を確認し、本時のねらいを確認させる。
(音楽)
- タブレット PC と授業支援ソフトを用いて、発表ノートを配付し、学習課題に対する自分の考えや目標などをまとめさせる。
(数学、音楽、理科)
- 教師用タブレット PC と授業支援ソフトを用いて、各生徒の考えを確認する。
(数学、音楽、理科)
- タブレット PC と授業支援ソフトを用いて、実験や観察の様子をカメラで撮影させたりビデオで記録させたりする。
(数学、理科)
- タブレット PC と授業支援ソフトを用いて、口の開け方や声の大きさ、姿勢、運指など演奏方法の確認をさせる。
(音楽)
- 紹介文やスキット作成、スピーチ原稿などを作成する際に、インターネットを用いて情報収集したことを活用して、授業支援ソフト（発表ノート）にまとめさせる。
(英語)
- タブレット PC を用いて自分の動きを撮影させ、動画で自分の動きを確認させる。
(体育)
- 自画像などを制作するときタブレット PC で自分の写真を撮影させ、写真を見ながら下絵を描かせる。
(美術)



板書での学習課題の提示（英語）



板書での学習課題の提示（数学）



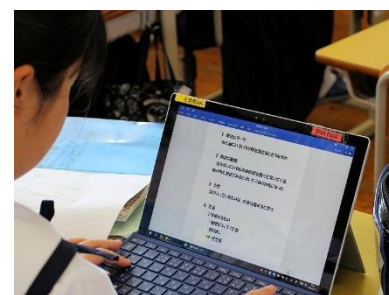
学習課題に関する動画の提示（体育）



タブレット PC と電子黒板を使った各自の考えの提示（道徳）



タブレット PC とデジタル教科書を使った関係図の作成（国語）



タブレット PC を使った実験計画書の作成（理科）

- 他と対話しながら、自分の考えを比較・吟味するなどして、考えを広げたり深めたりすること。

- グループをつくらせ、自分の考えを発表させて、お互いの考えを比較させたり意見交換させたりする。
- 授業支援ソフトのグループ化機能を用いて、各自の考えを共有させる。 (数学、音楽、理科、保健)
- 授業支援ソフトを用いて、タブレットPC画面に実験や観察の結果を提示し、学習課題に対する結論と考察を話し合わせる。 (数学、理科)
- タブレットPCと授業支援ソフトを用いて、問題に対する解き方をグループで比較させ、最適な解き方は何かを検討させる。 (数学)
- 個人で作成した紹介文やスキット、スピーチ原稿などについて授業支援ソフト(グループ化)を使ってグループ内で発表させる。また、互いの意見を比較させながら、付け加えたり修正したり練り上げさせ、よりよい発表原稿を作成させる。 (英語)
- タブレットPCを用いて動画で個人の動きや集団の動きを確認させ、お互いの動きについて、良い点や改善点などを話し合わせる。 (体育)
- 電子黒板を用いて、グループで話し合わせたり、演奏させたりしたものを提示し発表させる。 (音楽)
- 電子黒板とデジタル教科書を用いて、手順の確認をさせたり、考え方の違いを確認させたりする。 (家庭)
- エクセルなどの表計算ソフトを用いて、実験などで得られた結果をグループで検討させ、グラフ化させる。 (技術、数学、理科)
- パワーポイントや映像を参考にしながら、協力してけがの手当て等の実習を行う。 (保健)
- 作成したデータを友人と比較し、良いところや修正したいところを検討させる。 (技術)
- ワードなどの文字入力ソフトを用いて、課題について相談させながら画像処理や文字入力などを行わせる。 (技術)



授業支援ソフトのビデオ比較機能を使った動作の検討 (体育)



授業支援ソフトのグループ化機能を使った各自の解き方の共有と検討 (数学)



インターネット検索を利用した修学旅行しおりの制作 (学級活動)



授業支援ソフトを用いた実験データの共有 (理科)



グループで協力して英文のスキットづくり (英語)



授業支援ソフトの画面共有機能を使ったキャリアプランづくり (学級活動)



授業支援ソフトの画面共有機能を使った価値の検討 (道徳)



ペアによるモデルの説明検討 (理科)

- 自分のこれまでの考えと新たに学んだ考えをつなげること。

- 生徒に本時の学習課題やめあてに対するまとめを発表させ、板書を整理して構造化する。
- タブレットPC とドリルソフトを用いて、生徒に学習した内容の習熟をさせる。
- タブレットPC と授業支援ソフトを用いて、グループで共有した実験や観察の結果から、学習課題に対する結論と根拠を画面にまとめさせる。(理科)
- 本時の学習のまとめに関するキーワードをいくつか黒板に提示し、タブレットPC と授業支援ソフトを用いて、本時の学習内容をまとめさせる。(保健、数学、社会、音楽、理科)
- タブレットPC と授業支援ソフトを用いて学習した内容を発表する。その際、発表者の画面を各生徒のタブレットPC 画面に提示し、発表する内容を見やすくさせる。(英語)
- 電子黒板とタブレットPC やスマートフォンを接続し、学習課題に関する資料や模範演技の画像や動画を視聴させ、参考にさせる。(体育)
- 模範となる演奏と録音や録画したものを比較し、意見交換を行わせ、多様な考えに触れさせながら、グループでの話しあいを通してより高い演奏を目指す。(音楽)
- 世界の国々の様子を紹介するときに、特徴がある映像を生徒に紹介する。(社会)
- パワーポイントなどで作成したプレゼンテーションを用いて、本時のまとめを行う。(数学、理科、保健、体育)
- 電子黒板とタブレットPC やスマートフォンを接続し、制作中に撮影した写真や動画の中から、表現技法で工夫しているところなどを全体に紹介する。(美術)
- 練習問題プリントを使って、本時に学習した内容の習熟や定着を行う。
- 本時に学習した技術の習熟を行うために、繰り返し動作練習をする。(保健体育・技術)



タブレットPC と電子黒板を使った
実験結果の発表 (理科)



タブレットPC と電子黒板を使った
スキットの発表 (英語)



各パートを合わせた全体での合唱
(音楽)



タブレットPC を使って作成した原
稿の発表 (国語)



タブレットPC と電子黒板を使った
解き方の解説 (数学)



板書による学習の整理と学習の流れ
の構造化 (理科)



練習問題に取り組むことによる学習
した内容の習熟 (理科)



タブレットPC とドリルソフトによる
学習した内容の習熟 (社会)



生徒の発表を生かした学習内容の
まとめ (体育)

3 生徒の「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」を向上させるための問題発見・探究型学習の取組

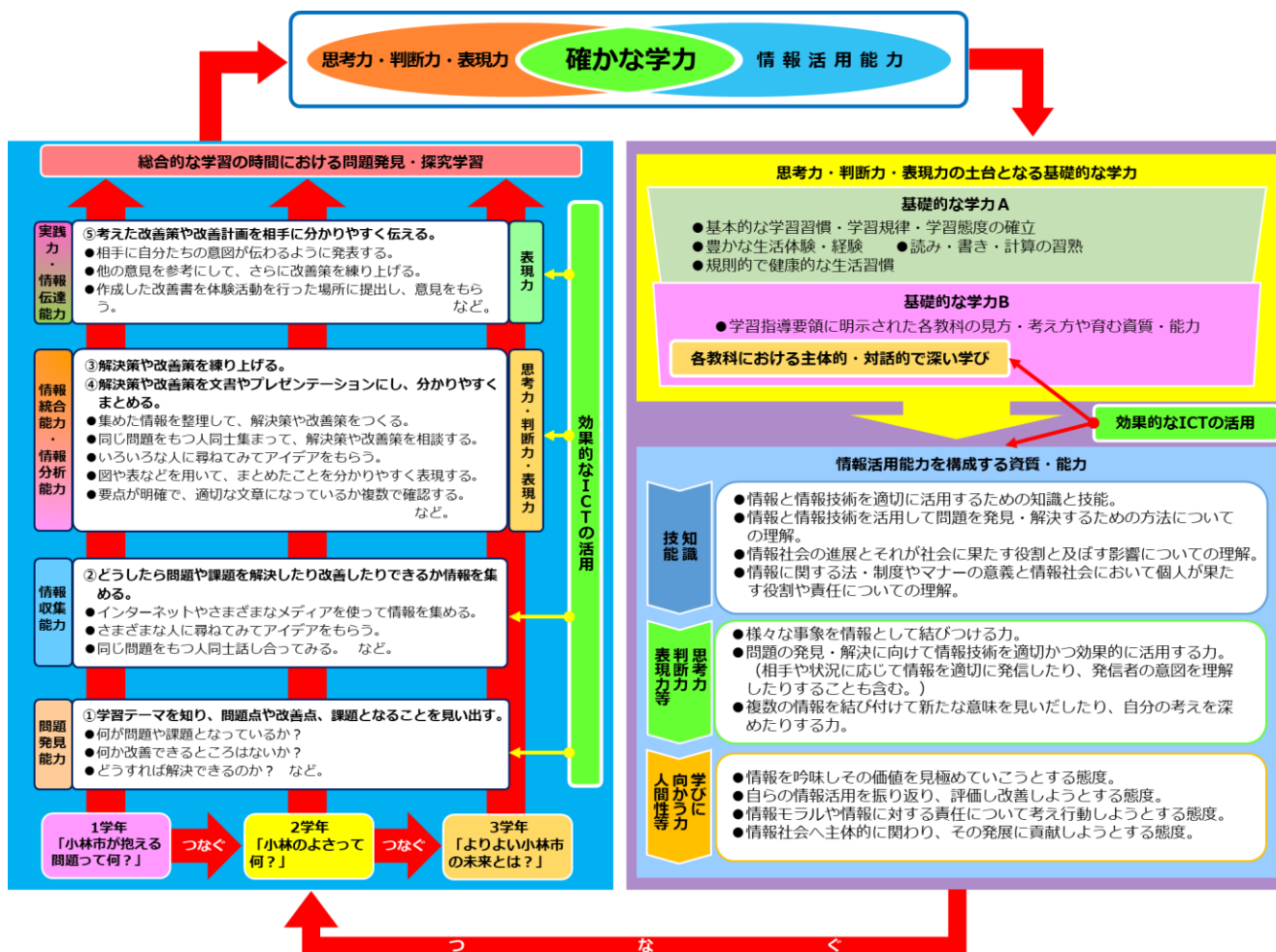
(1) 取組の概要

本校では研究1年次の成果と課題を生かし、各教科における「主体的・対話的で深い学び」における学習過程と効果的なICT活用の工夫に取り組みつつ、生徒の「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」をさらに向上させるために、総合的な学習の時間における「問題発見・探究型学習」に取り組みました。本校で取り組んだ「問題発見・探究型学習」の定義は以下の通りです。

東方中学校総合的な学習の時間における「問題発見・探究型学習」の定義

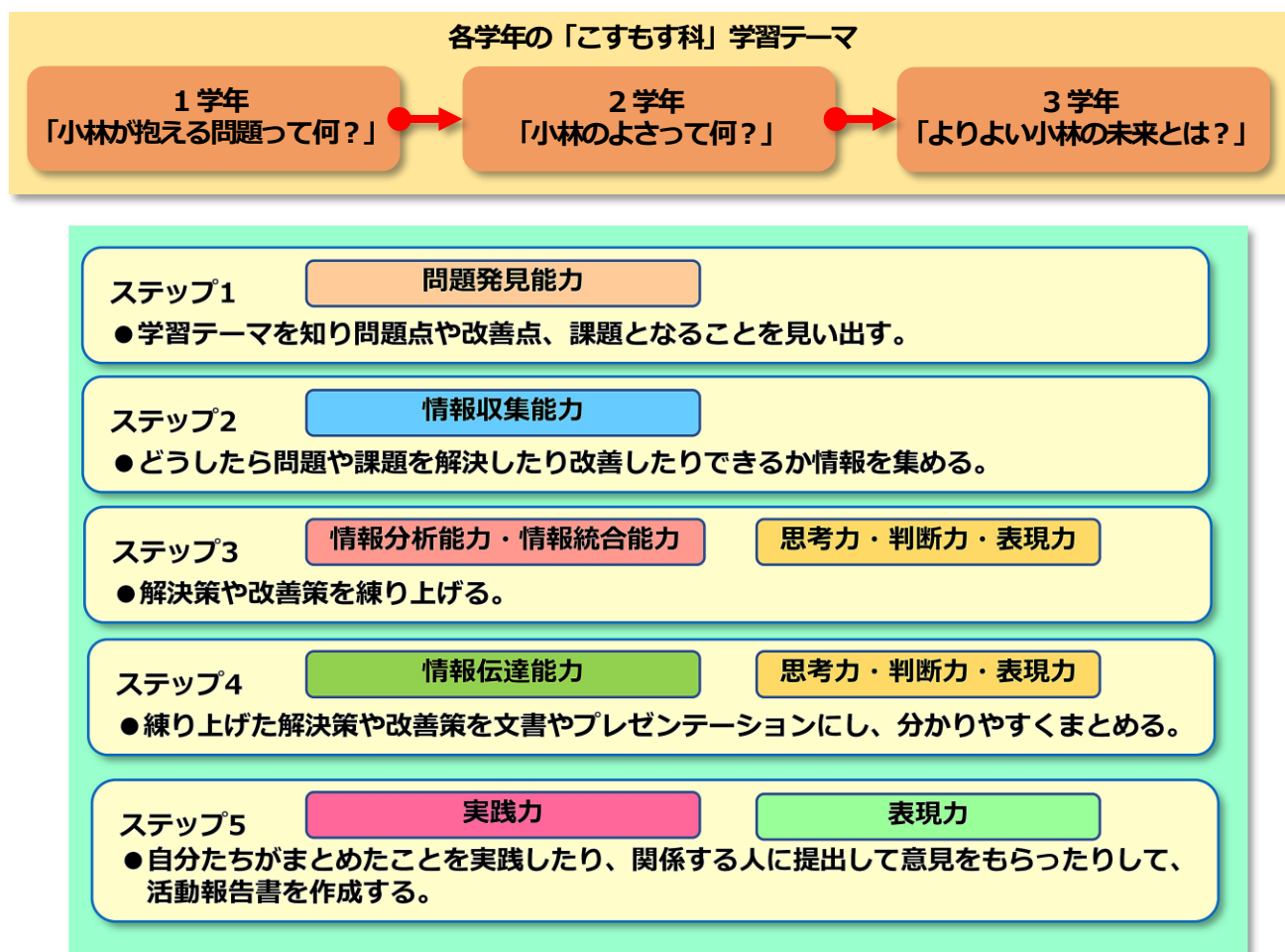
- 生徒は設定されたテーマにそって、自分で考えて学習課題を設定する。
- 生徒は学習課題を解決するために、個人で考えたり協力したりして様々な活動を行う。
- 生徒は学習した結果を個人やグループで様々な方法を用いて発表する。

小林市では、総合的な学習の時間において、地域独自の教材として「こすもす科」という単元を設定しており、市内の全小・中学校で各学年の「こすもす科年間指導計画」にそって学習しています。本校では総合的な学習の時間における「問題発見・探究型学習」の研究実践にあたり、「こすもす科」の学習内容を工夫して取組を行いました。以下がその概要図です。



(2) 「こすもす科」における問題発見・探究型学習の流れ

本校では、「こすもす科」における問題発見・探求型学習の実践にあたり、生徒が次の5つのステップを通して学習するように工夫しました。これらの5つのステップは本校が定義している「思考力・判断力・表現力」と「情報活用能力」と連携させています。



「こすもす科」における問題発見・探求型学習については、本年度の9月以降に研究実践をスタートさせたばかりで、まだ成果や課題がわかる段階にありません。実践を通して適宜修正等を行っていきたいと思います。

4 教員の ICT スキルを向上させるための授業研究会や研修会の実施

本校は毎年度同じ校区内の東方小学校と合同で研究主題を設定し、研究実践を行ってきました。また、毎年度交代で授業研究会を行っています。さらに、本校内でも1人1研究授業と授業研究会を研究主題にそって毎年度計画的に実践しています。

研修会については、小林市は毎年度「学習指導及び生徒指導相談充実事業」を宮崎大学教育文化学部と共同で行っており、本校と東方小学校が合同で毎年度1回、ICTや今後の教育に関する内容について、宮崎大学の先生から学んでいます。また、本校では平成29年度にタブレットPCと校内無線LAN環境が整備されてから、毎年度3回ほどICT機器の操作法についての研修会を実施しています。さらに、平成30年度と31年度には小林市教育委員会が主体となり、全小中学校教員を対象に「魅力ある授業づくり研修会」というタブレットPCの操作方法に関する研修を合計6回実施しました。この研修会では、ICT教育推進先進校である本校と東方小学校が会場となり、それぞれの学校の教員が講師役を務めました。次のページがその様子です。



小学校での合同研究授業



小学校での合同授業研究会



本校での1人1研究授業（社会）



本校での1人1研究授業（国語）



本校でのICT研修



小林市「魅力ある授業づくり」研修会



「学習指導及び生徒指導相談充実事業」での講演



「学習指導及び生徒指導相談充実事業」でのプログラミングロボットの操作



「学習指導及び生徒指導相談充実事業」でのiPadを使ったセンサーのプログラミング操作

5 授業以外でのタブレットPCの活用

本校では授業以外にもさまざまな場面でタブレットPCを活用しています。その例を紹介します。各学校においても授業以外で活用できる場面が数多くあります。



ペーパーレス職員会



Zoomを使った給食時間の生徒会役員選挙政見放送



生徒総会での活用（教師の指示を見ながらの進行）



生徒総会での活用（スクリーンへの討議内容のタイピング）



生徒総会での活用（生徒会役員への指示を行う教員）

IV 研究実践の検証

1 情報活用能力について

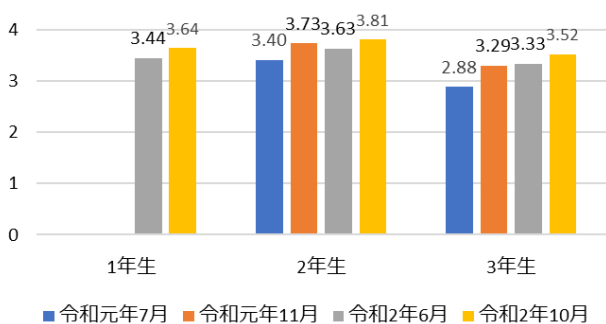
研究における生徒の変容を調べる方法として、「情報活用能力」については、川崎市情報活用能力チェックリストと文部科学省の情報活用能力体系表を参考に、本校における情報活用能力チェックリストを作成し、値の経月変化を用いることにしました。右が本校における情報活用能力チェックリストです。また、下のグラフが「情報活用能力」各分類の経月変化グラフです。各質問項目を点数化し、分類ごとに4点満点中の平均点を求めました。

グラフの結果からは、全学年、全分類において上昇傾向が見られます。この原因として、タブレットPCをはじめとしたICT機器を活用した授業が年々増えていることや昼休みや放課後にタブレットPCを借りる生徒が増えているため、生徒の使用頻度が増えていることが考えられます

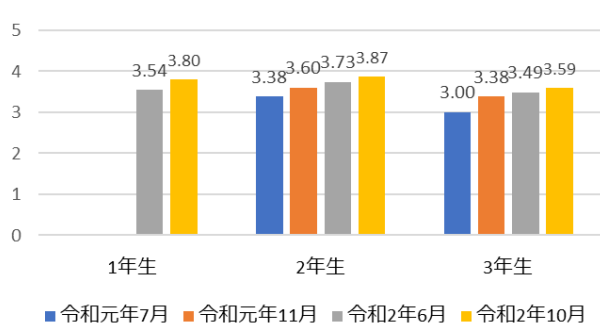
中学生 情報活用能力チェックリスト

		()年()番 氏名()		
分類	番号	項目	あてはまる程度	
知識・技能	1	コンピュータで作った画像や動画などのファイルの大きさは、それぞれちがうことを知っている。	4-3-2-1	
	2	身のまわりの生活に使われているので、コンピュータを使うことで便利になったもの(製品など)を知っている。	4-3-2-1	
	3	ローマ字入力でキーボードを使って文章を打つことができる。	4-3-2-1	
	4	デジタルカメラやタブレットなどで撮影した画像や動画をトリミングしたり、拡大縮小したり、編集したりすることができる。	4-3-2-1	
	5	インターネットを使って、知りたいことをキーワードを使って調べたり、いろいろな検索サービス(ヤフーやグーグルなど)を選んだりして調べることができる。	4-3-2-1	
	6	発表ノートやハイパーキューブ、パワーポイントなどを使って、見やすさを考えたスライドを作ることができる。	4-3-2-1	
	7	ハイパーキューブやエクセルなどの表計算ソフトを使って、表やグラフ(自盛りやグラフの種類などを選んで)を作ることができる。	4-3-2-1	
	8	新聞やテレビ、インターネットなどからの情報を利用するときには、作成した人の考えが含まれていることを分かった上で利用している。	4-3-2-1	
	9	SNS(ラインやフェイスブックなど)に人の写真や文章等をあげる(アップロードする)ときには、肖像権・著作権に気をつけることができる。	4-3-2-1	
	10	悪意がある情報や、不適切・不正なサイトを見つけたときは、自分から見ないようにし、人に相談できる。	4-3-2-1	
	11	学習のまとめなどをすときに、インターネットなどで調べた本や文、語句などがあるときには、調べたサイトのアドレスをきちんと書いている。	4-3-2-1	
	思考力・判断力・表現力等	12	必要に応じて、記録したり質問したりしながら、話す人の言いたいことを聞き取ることができる。	4-3-2-1
		13	複数の情報(インターネットや新聞、本など)を比較し、必要なものを選んでまとめることができる。	4-3-2-1
		14	実験結果や資料から読み取った数値をもとに、表やグラフに表すことができる。	4-3-2-1
		15	目的や自分の考えに応じて、調べたことの中から必要なものを選び、新聞やレポート等にまとめることができる。	4-3-2-1
		16	表やグラフから変化や傾向を読み取り、分かりやすく説明することができる。	4-3-2-1
		17	知りたいことを、インターネットや本、見学や体験、実験、観察などをして調べることができる。	4-3-2-1
		18	複数のホームページを比べて、調べる内容が正しいか判断して、活用することができる。	4-3-2-1
		19	グループで話し合うときに、まわりの意見を聞きながら質問をし、根拠を入れて自分の意見を発表することができる。	4-3-2-1
		20	タブレットPCや電子黒板などで、注目してほしいところを指で確認したり、マーキングしたりするなどの工夫をして発表することができる。	4-3-2-1
学びに向かう力・人間性等		21	複数の意見や情報を比べて、根拠をあげて自分なりの考えを発表するようにしている。	4-3-2-1
		22	伝えたいことが、受け手の状況に応じてきちんと伝わっているか、自分の発表の仕方をふり返るようにしている。	4-3-2-1

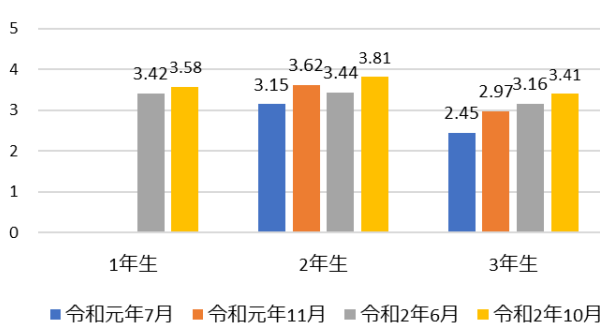
東方中学校 情報活用能力(思考力・判断力・表現力等) 令和元年7月～令和2年10月の変化



東方中学校 情報活用能力(知識・技能) 令和元年7月～令和2年10月の変化

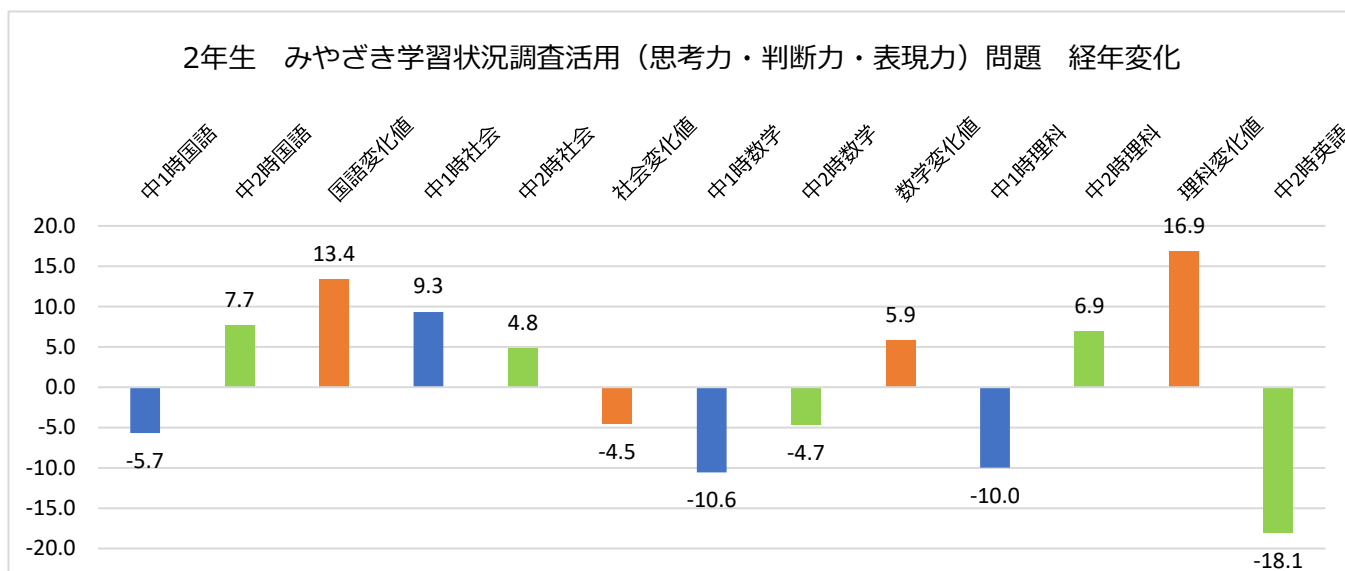
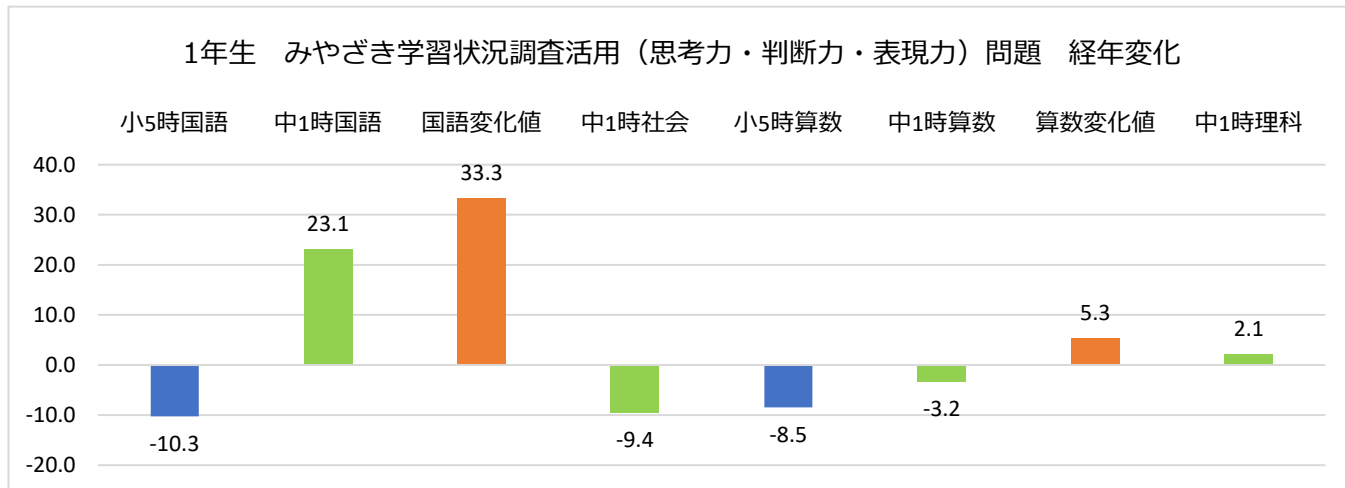


東方中学校 情報活用能力(学びに向かう力・人間性等) 令和元年7月～令和2年10月の変化



2 思考力・判断力・表現力について

「思考力・判断力・表現力」の検証については、宮崎県が毎年度実施している「みやざき学習状況調査」のB問題（活用を見る問題）において、学年平均と県平均との差について、経年変化を用いることにしました。なお、「みやざき学習状況調査」は1年生と2年生で実施されており、3年生では実施されていないので、1年生と2年生の経年変化を用いることにしました。



グラフの結果より、1年生では、国語と算数で小学校5年生のときより向上が見られます。特に国語は大きく向上しています。また、小学校5年生でみやざき学習状況調査を実施していない社会と理科では、社会が県平均より-9.4、理科が+2.1という結果でした。このように、中学1年生では教科によって「思考力・判断力・表現力」の変容にばらつきが見られました。

次に2年生では、国語、数学、理科で向上が見られます。社会は中学1年生より2年生のときの値が下がっていますが、それでも県平均を+4.8上回っています。中学2年生で初めて実施となる英語は県平均より低くなっています。

ただし、「思考力・判断力・表現力」については、新型コロナウイルス感染症の関係で、年1回のテストで変容を調べたことにより、まだまだ十分な検証となっていないと判断しています。

「情報活用能力」と「思考力・判断力・表現力」の研究の検証として、今後は他の評価方法も使いながら、より多面的・総合的に「確かな学力」について変容を検証していきたいと思ひます。

3 ICTを活用するときの注意について

本校は平成 29 年 7 月からタブレット PC などの ICT 機器を活用した研究実践を行ってきました。本校の職員は実践を行う中で、さまざまなトラブルや失敗に直面し、今後に生きる教訓を得ました。これまでの実践の中で分かった ICT 活用の注意点は次の通りです。

● ICTを活用した授業について

- ◆ **タブレット PC などの ICT 機器はドライバーやコンパスなどと同じ道具の 1 つです。失敗しながらでもいいので、使えば使うほどスキルが上達します。逆に使わなければいつまでたっても使えるようにはなりません。**
- ◆ **ICT 機器を活用することが目的の授業にならないようにしましょう。授業の目的はあくまで本時の学習目標の達成です。**
- ◆ **ICT 機器を授業で使う前に、本当にその授業で ICT 機器が必要なのかよく検討しましょう。むやみに ICT 機器を使うと効率が悪くなったり、かえって時間がかかったりすることがあります。アナログな授業の方がよい場合も数多くあります。**
- ◆ **ICT 機器を使う授業でも「学習課題やめあての板書」、「学習した内容についての板書の構造化」、「児童・生徒にノートをきちんと取らせること」は絶対に必要です。**
- ◆ 生徒にタブレット PC を使わせる前には、使い方について、職員の共通理解と全校生徒への指導が必要です。各学校で「タブレット PC を使うときの決まり」をつくって各教室に掲示しておくといいです。
- ◆ 授業で生徒がタブレット PC を使うときには、タブレット PC にラベルテープで番号を貼っておいて、必ず同じ番号のタブレット PC を使わせるようにします。故障や破損のときの原因を素早く明確にすることができます。
- ◆ 授業以外の時間に生徒がタブレット PC を使う場合は、タブレット PC 借用簿を準備しておき、使用するタブレット PC の番号、使用日時、借りた生徒氏名などを記録させることが大切です。また、タブレット PC を使用する場所を決めておく方がよいです。

● ICT関係のトラブルについて

- ◆ 授業支援ソフトを使用する場合に、インターネット回線速度が遅いと生徒とのデータのやり取りに時間がかかることがあります。特にファイル容量の大きい画像や映像の転送には時間がかかります。
- ◆ タブレット PC などで作成したデータは電子データなので、何かの理由で消えることがあります。こまめに作成したデータの保存をさせます。また、学校のサーバーなどにデータのバックアップをとっておくことも重要です。
- ◆ タブレット PC を終了させるときは、完全にシャットダウンして画面が真っ黒になってからカバーを閉じさせ、持ってこさせます。シャットダウンしないでカバーを閉じるとスリープモードになり、そのまま充電すると過充電になるので、内部のバッテリーが膨張したり破裂したりする原因となります。
- ◆ タブレット PC を使用しているときに何らかの不具合が出たときは、とりあえず再起動させます。ある程度のトラブルは再起動することで直る場合が多いです。タブレット PC がフリーズしたときは、電源ボタンを長押しして、強制終了させることもできます。ただし、その場合は途中で作成していたデータは消えてしまいます。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 本校における研究内容の定義（「確かな学力」、「思考力・判断力・表現力」、「情報活用能力」、「主体的・対話的で深い学び」）を明確にし、共通理解することで、全職員が同じ方向で研究実践に取り組むことができました。
- (2) 研究実践の検証で示した通り、生徒や職員が、授業だけでなくさまざまな場面・時間を使って、タブレット PC をはじめとする ICT 機器を活用し、情報モラルや情報活用のマナーを計画的・系統的に全学年で学習したことで、生徒の「情報活用能力」が向上しました。
- (3) 研究実践の検証で示した通り、「主体的・対話的で・深い学び」を生む学習過程と効果的な ICT の活用に取り組んだ結果、いくつかの教科で生徒の「思考力・判断力・表現力」が向上しました。
- (4) 計画的に ICT の研究に取り組み、ICT 機器を活用した授業の実践を積み重ねることで、全体的に職員の ICT スキルが向上し、ICT 機器の操作方法やトラブルについて知識や技能を共有することができました。

2 研究の課題

- (1) 本校内でも教員によってタブレット PC の活用に差がみられます。計画的に研修会を実施しても、なかなかその差を埋めることができないでいます。「タブレット PC を使うことに不安がある。」、「どのようにタブレット PC を使えばよいのかわからない。」などが原因と考えられるので、それらを和らげる手立てを工夫する必要があります。
- (2) 職員は定期的な異動があるので、毎年度職員が入れ替わります。校内研究は学校の実態に合わせた長年の取組の積み重ねなので、年度を通して計画的に研修や共通理解する場を設定し、各職員の負担を考慮しながら、協力して取り組んでいくことが重要だと考えます。
- (3) 研究 2 年目に「総合的な学習の時間における問題発見・探究学習」に取り組みました。新学習指導要領における「何ができるようになるか」に大きく関わる内容なので、本年度の成果と課題を生かし、引き続き研究に取り組んでいきたいと考えます。
- (4) 新学習指導要領では、学習の結果、「何ができるようになるか（新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実）」が重視されています。本校も多様な評価方法を取り入れながら、研究実践に取り組んでいきたいと思えます。また、学校のホームページや各種メディアを使って、各学校の研究の取組や成果と課題を地域や他の学校に広く公開し、情報交換や研究の波及を行うことが重要だと考えます。